

第14回宇宙民生利用部会 議事要旨

1. 日時：平成28年11月14日（月） 15：00－17：00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

（1）委員

白坂部会長代理、石田委員、遠藤（信）委員、遠藤（典）委員、柴崎委員、高山委員、山川委員

（2）事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

佐伯審議官、高見参事官、行松参事官、松井参事官、佐藤参事官

4. 議事要旨

（1）宇宙民生利用に関する工程表の改訂について

「宇宙民生利用に関連する工程表の改訂」に関して、事務局からの説明も踏まえ、議論を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、○意見等）

○工程表29の新事業・新サービスを創出するための取組、工程表22の海洋状況把握などの各取組を連携させることによって、衛星データが社会に一層浸透するように検討していただきたい。

○A1においては質の良い「分析」と「データ」が重要になる。衛星データをどのように保存するかが、良いサービス、ソリューションにつながる。このような点についても、意識しながらしっかり議論すべきである。

○海外の衛星データプラットフォームに関する取組／課題の棚卸しをしてみてもどうか。データのサイズや提供方法など何が課題となっているかを調べるべき。

宇宙民生利用部会としての宇宙基本計画工程表改定案の取りまとめについては、部会長代理預かりとして調整をしていくこととなった。

（2）リモートセンシング衛星開発の評価・検証の仕組みについて

事務局から説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、○意見等）

○衛星データ利用の検討にあたっては、利用者によってニーズの種類が異なるので、具体的な利用者を想定したうえでニーズを検討してはどうか。例えば、防災分野では、自治体が欲しい情報と一般の方が欲しい情報は異なる。

○具体的な議論がない中で衛星データの利活用を検討していても進まない。産業別のIoT化について、どのように衛星データを役立てていくかという議論をしてはどうか。

○IoTの価値はリアルタイム性。現在に非常に近いデータを利用することでより正確に将来を推定することが可能になる。

○既に衛星データを使用している人、今使用していないが今後使用したいという人たちのニーズは分かりやすいが、衛星データ利用を一切想定していない人々のニーズの把握は難しい。このようなニーズを整理して具体的に落とし込んで議論してはどうか。

○衛星を使うコストについて他の手段との比較優位性を検討することも重要ではないか。

○こうした衛星開発の評価・検証の取組は、政府レベルで継続的に取り組むことが重要である。

(3) 宇宙産業振興小委員会の検討状況について

事務局から説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。(以下、○意見等)

○機器産業については、既存産業と新産業を分けて議論してみてもどうか。既存産業では品質・コスト・納期の向上が課題であることは明確だが、小型衛星の製造・打上げなどの新産業では市場自体の形成が課題となる。この点では、政府の対応が異なる。

○議論をもう少し整理した方が良いところがある。今見えていない産業・ビジネスをどうしていくかも検討していくためには、要素を分解して具体的な議論を進めていく必要がある。

今回の議論も踏まえ、宇宙産業ビジョン策定に向けた中間整理に対する宇宙民生部会としての対応については、部会長代理に一任となった。

(3) 宇宙二法の成立及び取組状況について

事務局から報告を行った。

以 上